

令和4年12月

令和4年	10月	～	12月期	実績
令和5年	1月	～	3月期	見通し

中小企業景況調査報告書

岩手県商工会連合会

主要景況項目の動き.....	2
業況天気図	3
全産業の推移	4
製造業の推移	7
建設業の推移	11
小売業の推移	15
サービス業の推移	19
全産業の過去データの推移	23
* 平成15年1月以降	

〔集計資料〕

D・Iとは

D・Iとは、ディフュージョン・インデックスの略です。これは、企業経営者の景気動向を表す指標として利用されています。

算出方法は、増加（上昇・好転）企業割合から減少（低下・悪化）企業割合を差し引いたものです。

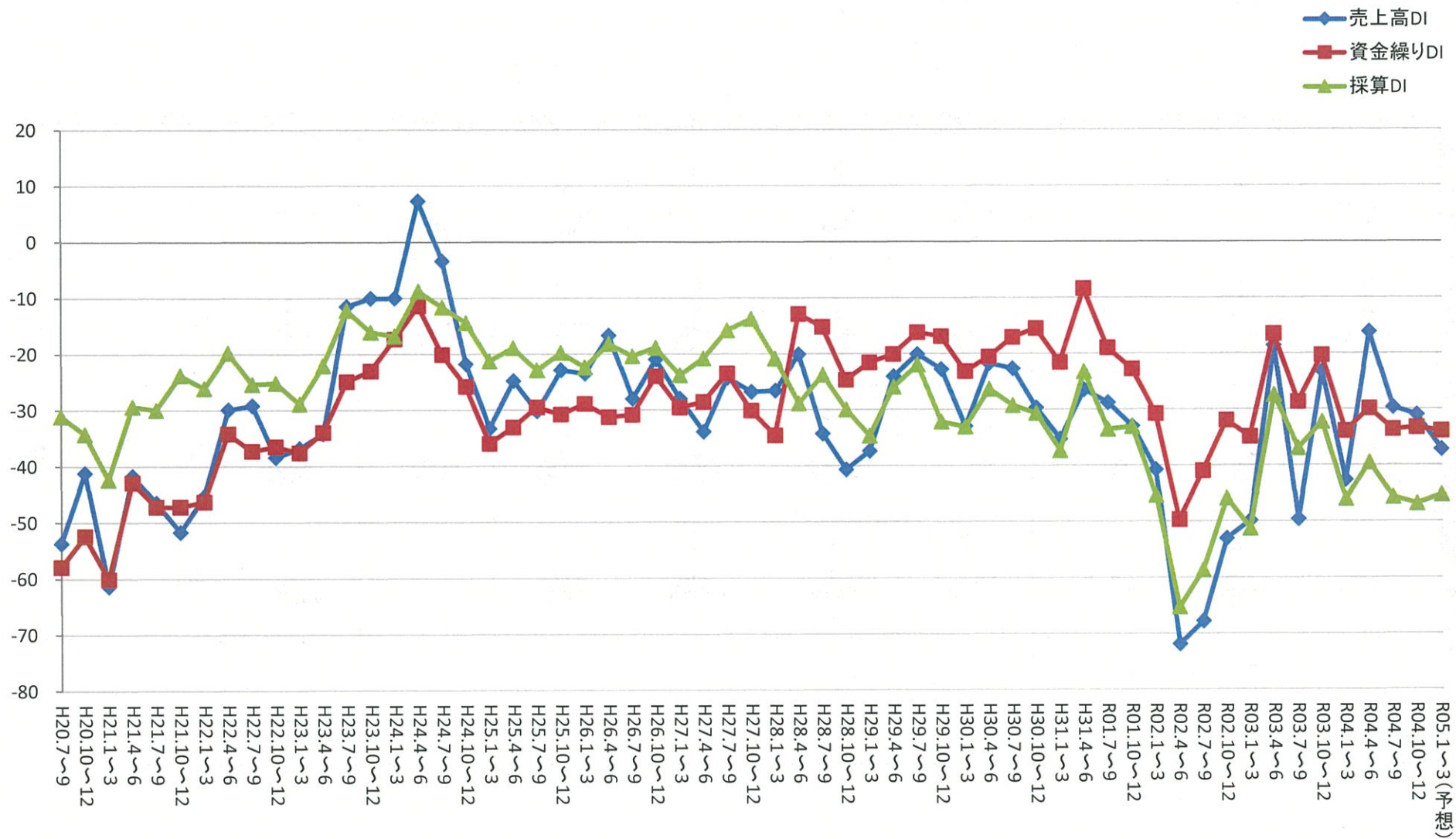
D・Iがプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）、原材料または商品の仕入単価の場合はプラスなら上昇気運、マイナスなら低下気運となります。

プラス、マイナス同数の場合はD・Iはゼロになります。

たとえば、売上高増加企業50%、不変企業30%、減少企業20%の場合、 $D・I$ は $50 - 20 = 30$ となり、全体として経営者の売上高に対する強気の度合いを表しています。

[岩手県 産業全体]

主要景況項目の動き ー前年同期比ー



業 況 天 気 図

期 間 業 種	令和3年 1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	令和4年 1～3月	4～6月	7～9月	(今期) 10～12月	(見通し) 令和5年 1～3月
製 造 業	 雨	 薄 曇	 曇	 曇	 雨	 晴	 薄 曇	 曇	 曇
建 設 業	 雨	 曇	 雨	 曇	 曇	 薄 曇	 曇	 雨	 雨
小 売 業	 雨	 雨	 雨	 雨	 雨	 雨	 雨	 雨	 雨
サ ー ビ ス 業	 雨	 曇	 雨	 曇	 雨	 雨	 雨	 雨	 雨

売 上 高 D I	100.0 ～30.1	30.0 ～10.1	10.0 ～△10.0	△10.1 ～△30.0	△30.1 ～△100.0
表 示	 快 晴	 晴	 薄 曇	 曇	 雨

全産業の推移

売上高

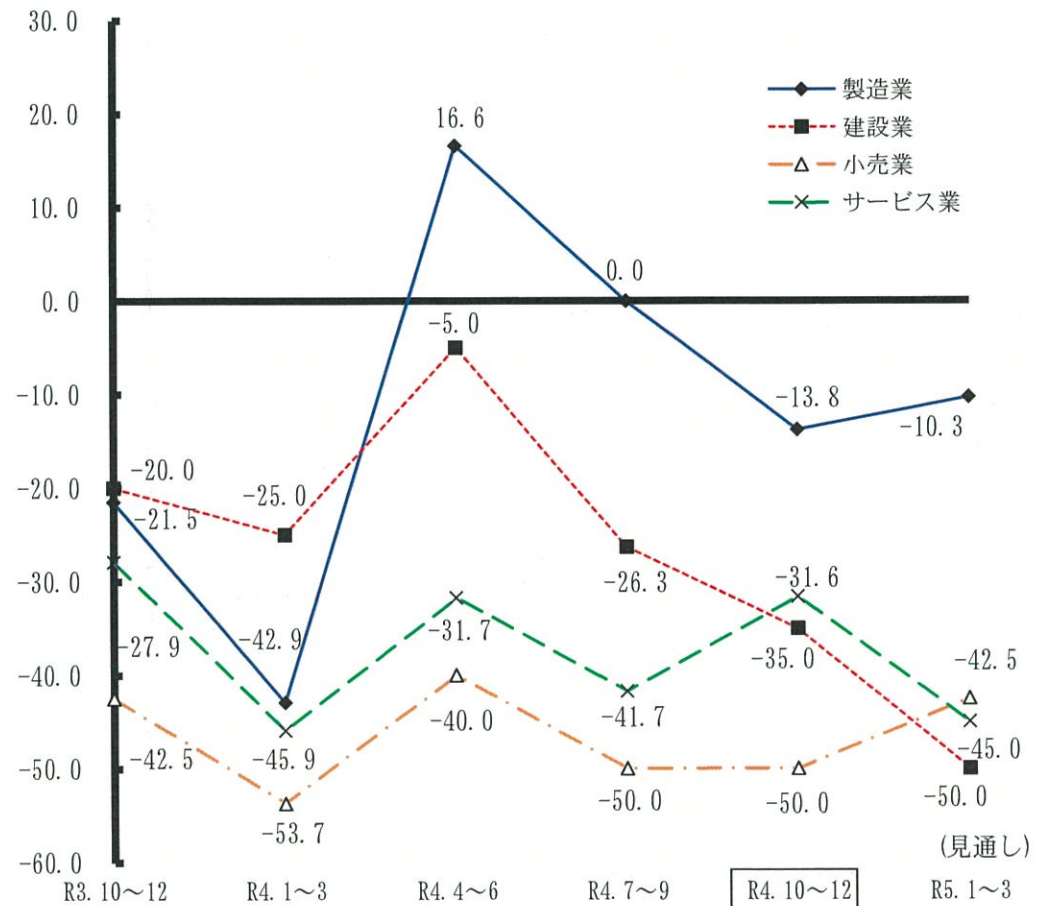
**製造業、建設業で売上高D・Iが悪化
サービス業が改善**

今期の売上高D・Iは、製造業と建設業において2期連続しての悪化となりました。製造業は13.8ポイント減少して再びマイナス域まで低下しています。建設業も8.7ポイント減少して△35.0まで低下しました。

サービス業は10.1ポイント増加して△31.6まで改善、小売業は横ばいに留まったものの依然として△50.0の低いレベルで推移しています。

来期は、製造業と小売業において改善が見込まれるものの、建設業は引き続き大幅な悪化が見込まれます。また、サービス業も悪化に転じる見通しとなっています。

※建設業の売上高は完成工事高



全産業の推移

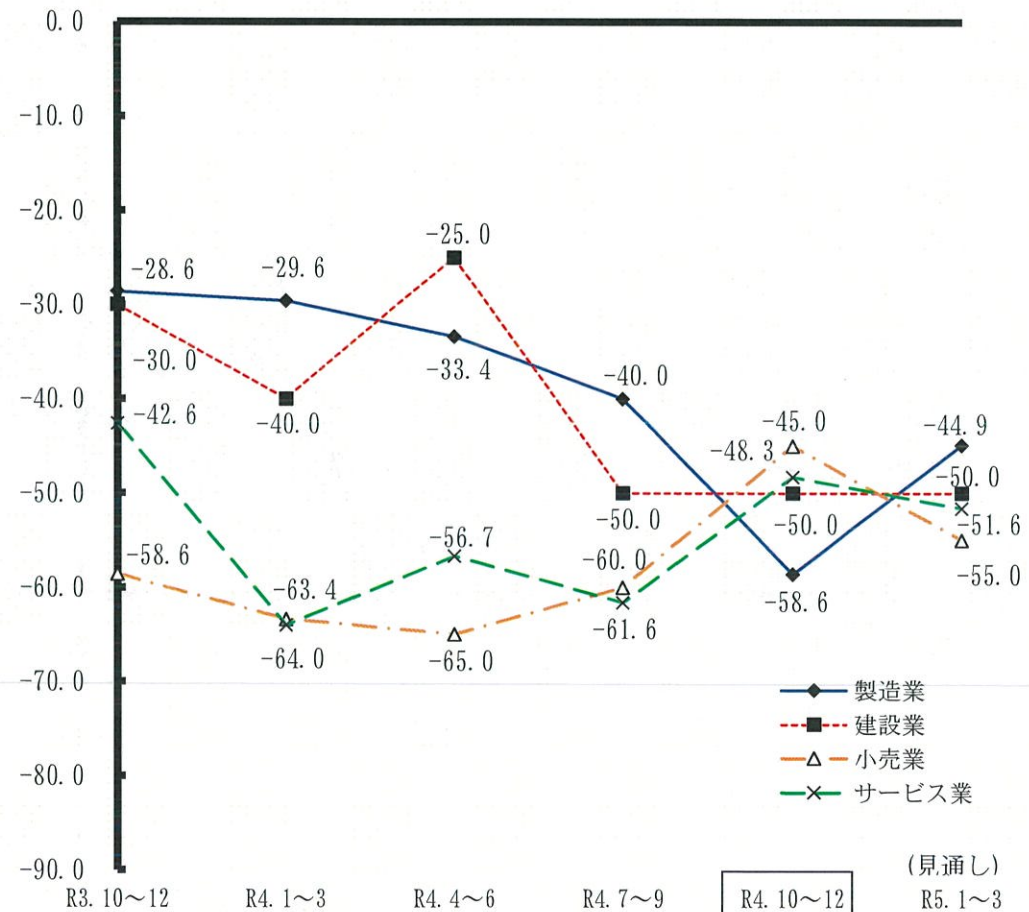
採 算

小売業・サービス業において採算D・Iが改善
製造業が大幅に悪化

今期の採算D・Iは、小売業が15.0ポイント増加して△45.0まで改善、サービス業も13.3ポイント増加して△48.3まで改善しました。建設業は前期と横ばい、製造業が18.6ポイントの大幅な減少となり、△58.6まで悪化しました。

来期は、今期大幅に低下した製造業が上昇に転じる見通しですが、建設業は今期と横ばいに留まり、小売業、サービス業の2業種が悪化に転じることが予想されています。

※採算は各業種とも経常利益



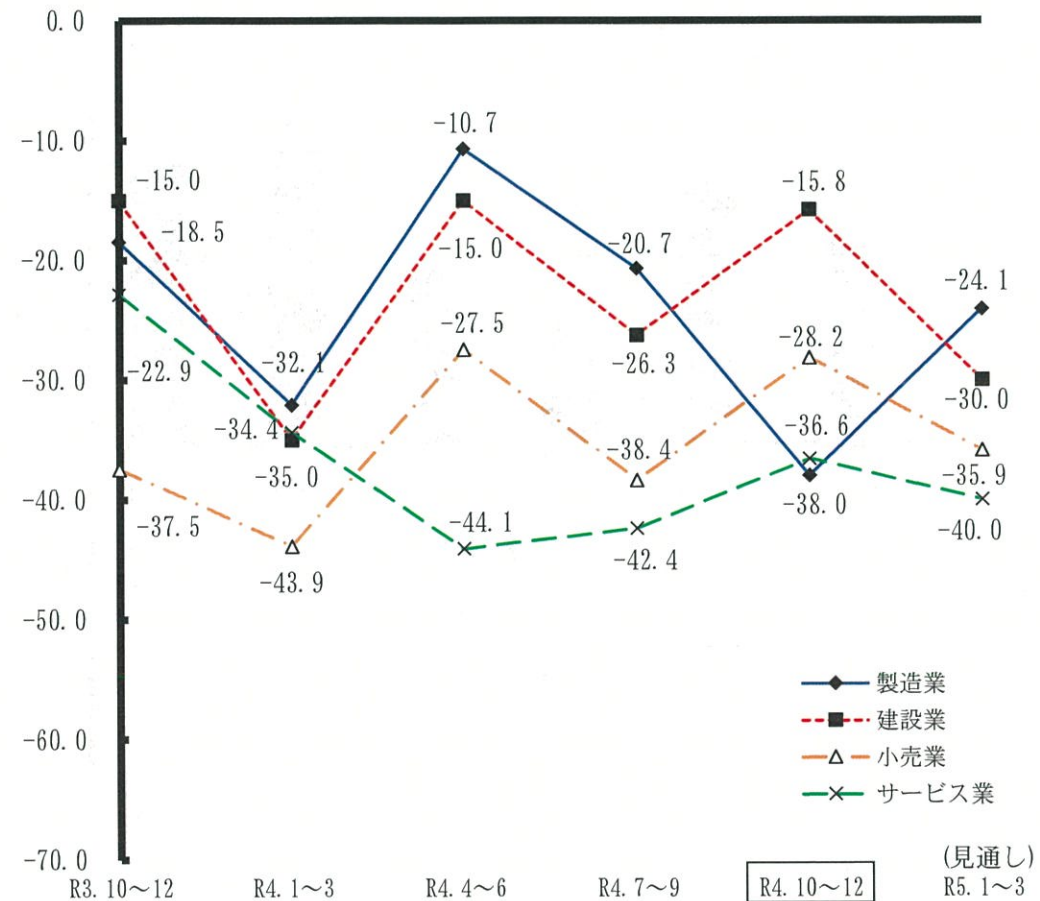
全産業の推移

資金繰り

製造業を除く3業種において資金繰りが改善
製造業が大幅に悪化

今期は製造業を除く3業種において資金繰りD・Iが改善しました。前期大幅に悪化していた建設業、小売業が改善に転じています。建設業は10.5ポイント増加して△15.8まで改善、また、小売業も10.2ポイント増加して△28.2まで改善しました。サービス業も5.8ポイント増加して△36.6となり、2期連続しての改善となりました。他方、製造業は17.3ポイントの大幅な減少となり△38.0まで悪化しています。

来期は、今期大幅に悪化した製造業が改善に転じる見通しですが、建設業、小売業、サービス業が再び悪化に転じることが予想されます。



製造業の推移

売上高

<今 期>

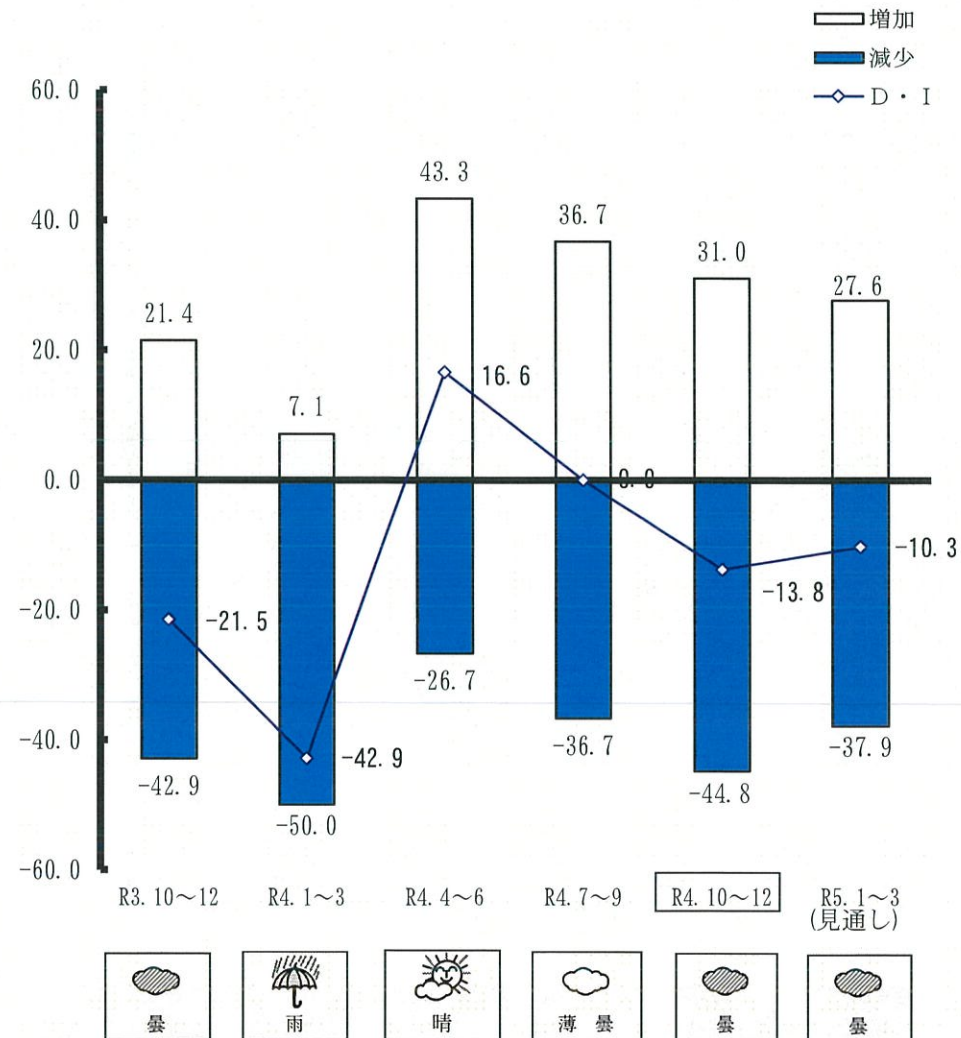


<来期見通し>



今期は、売上高増加企業の割合が5.7ポイント減少し、また、売上高減少企業の割合が8.1ポイント増加したことから、売上高D・Iは13.8ポイントの低下となって再びマイナス域まで悪化しています。

来期は、売上高の増加を予想する企業割合が引き続き減少するものの、売上高の減少を予想する企業割合が減少することから、売上高D・Iは改善に転じる見通しです。



採算

<今 期>

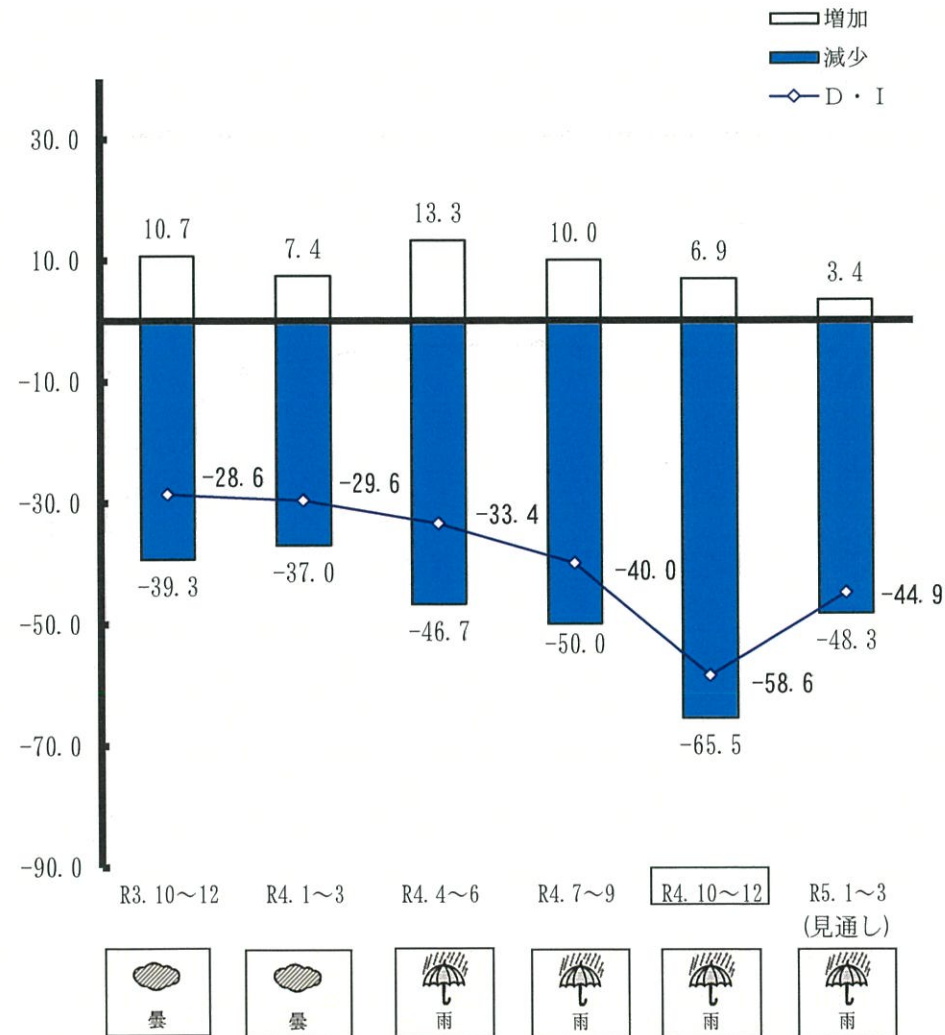


<来期見通し>



今期は、採算が改善した企業の割合が3.1ポイント減少し、また、採算が悪化した企業の割合が15.5ポイント増加したことから、採算D・Iは18.6ポイントの大幅な低下となり、△58.6まで悪化しました。

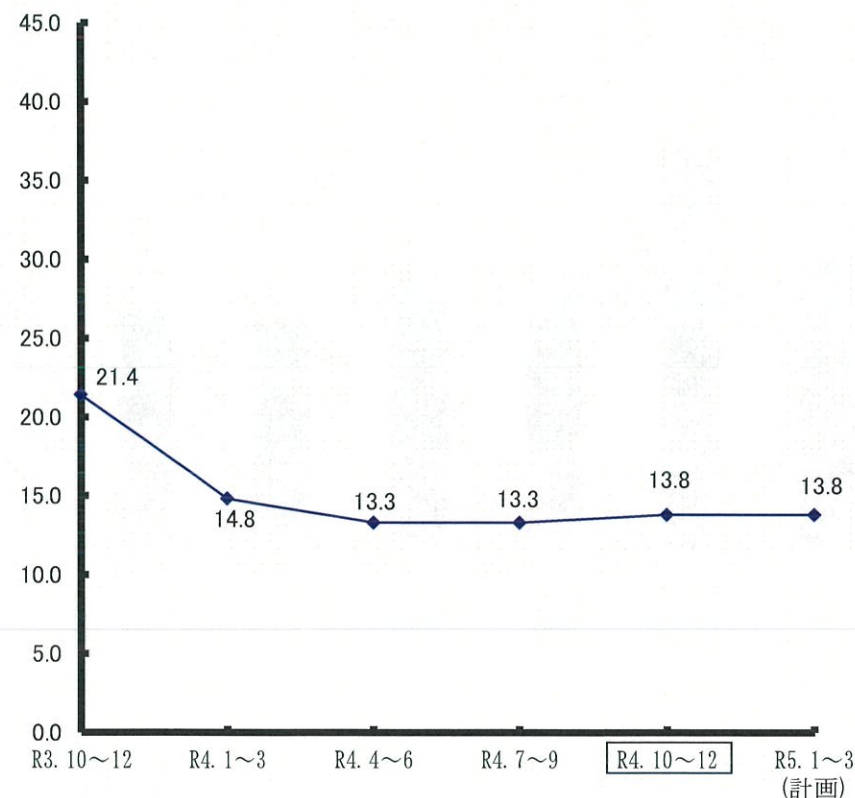
来期は、採算の改善を予想する企業が引続き減少するものの、採算の悪化を予想する企業が減少することから、採算D・Iは、改善に転じることが予想されています。



設備投資

今期製造業において設備投資を実施した企業数の割合は、前期とほぼ横ばいの13.8となり、一定の数値を維持しています。

来期は、設備投資を実施する企業数の割合は今期と同じレベルとなることが予想されています。



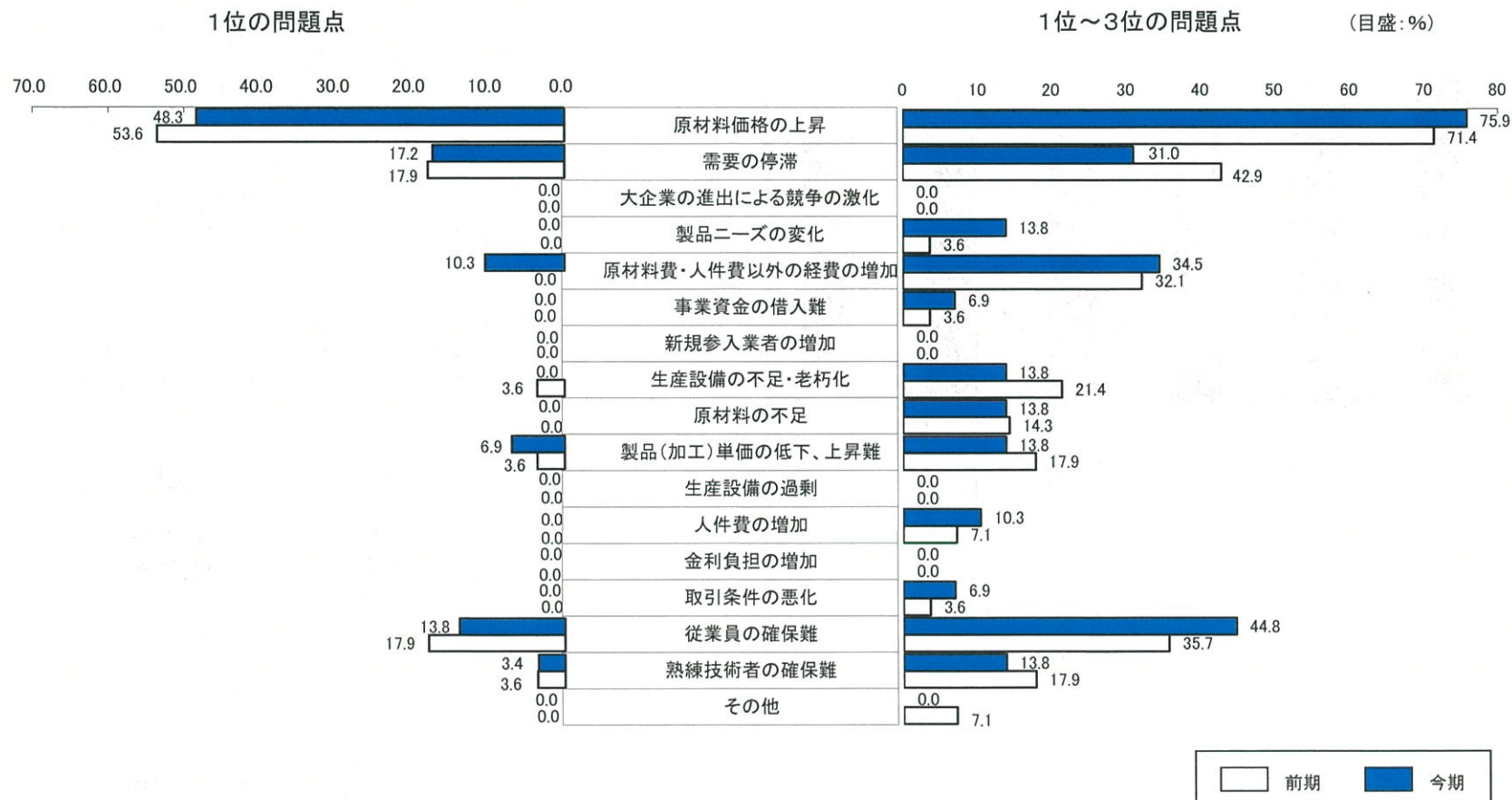
(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

製造業の推移

経営上の問題点

岩手県 製造業

経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)



建設業の推移

売上高

<今 期>

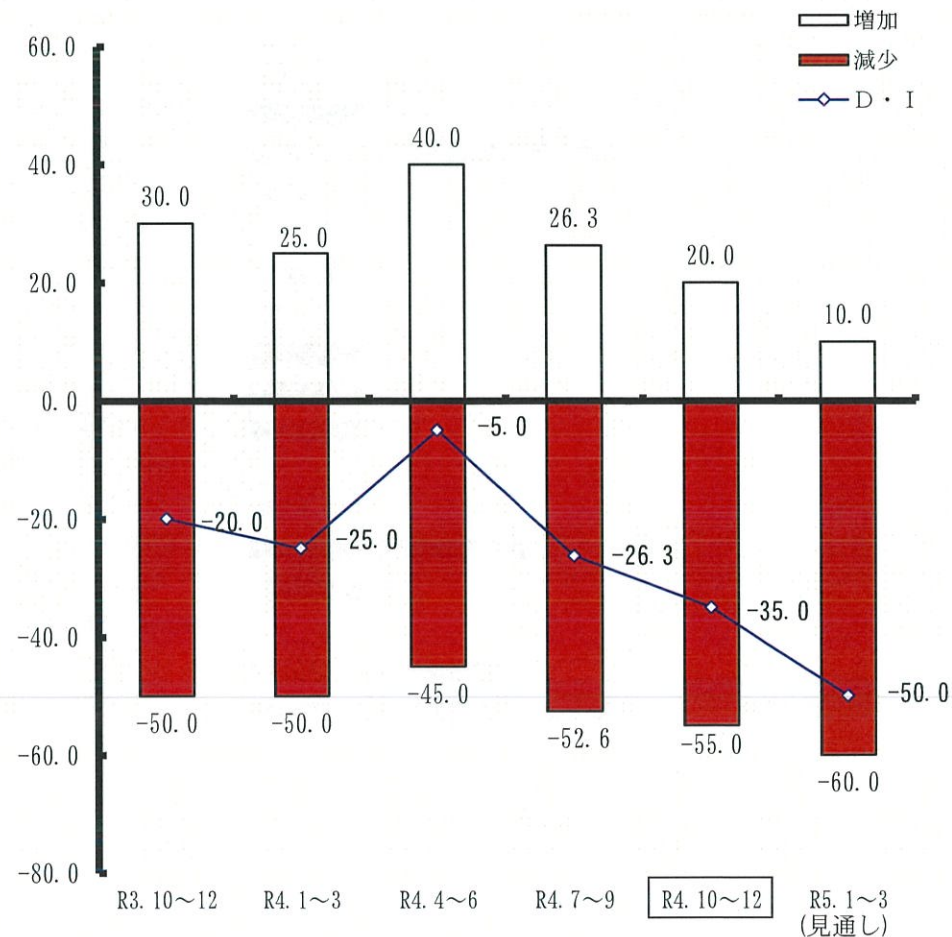


<来期見通し>



建設業の売上高D・Iは、今期は2期連続の低下となり、マイナス幅を拡大しています。今期は、売上高が増加した企業割合が6.3ポイント減少し、売上高が減少した企業割合が2.4ポイント増加したため、売上高D・Iは2期連続して低下し、△35.0まで悪化しています。

来期は、売上高の増加を予想する企業の割合が今期に引続き減少し、売上高の減少を予想する企業の割合が増加するため、売上高D・Iは引続き悪化し、マイナス幅をさらに拡大することが予想されています。



※建設業の売上高は完成工事高



採算

<今 期>

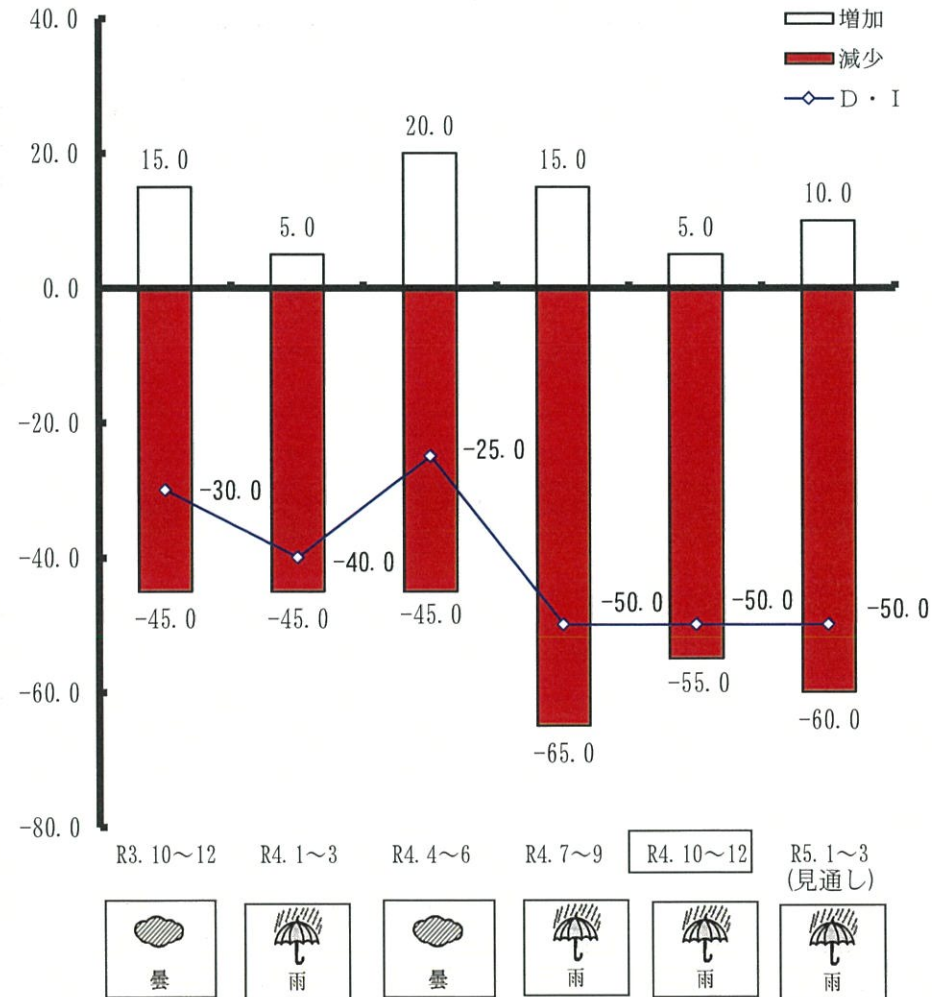


<来期見通し>



今期は、採算が改善した企業の割合が10.0ポイント減少したものの、採算の悪化を挙げた企業の割合が10.0ポイント減少したため、採算D・Iは横ばいとなり、前期に引き続き△50.0の低い水準にとどまっています。

来期は、採算の改善を予想する企業が増加に転じるものの、採算の悪化を予想する企業が増加に転じることから、採算D・Iは今期と同様に低い水準に留まることが予想されています。

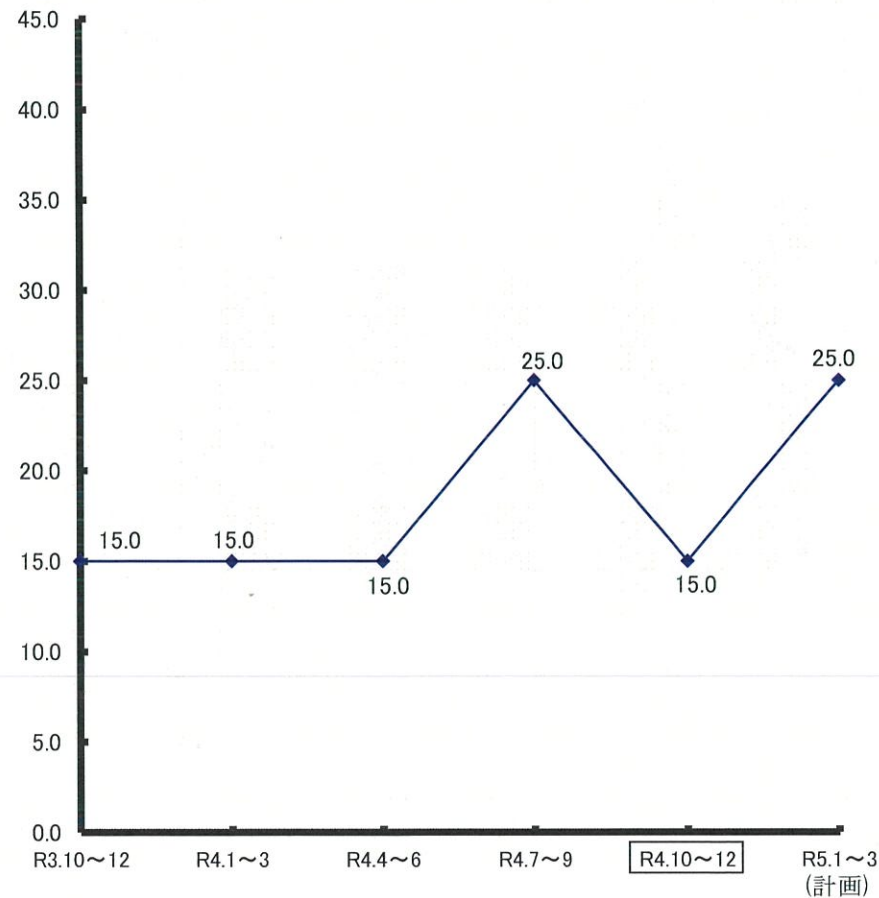


設備投資

建設業において設備投資を実施した企業数の割合は、10.0ポイント減少して15.0となっています。

来期は設備投資を実施する企業数の割合は再び増加に転じる見通しで、前期と同レベルの25.0まで回復することが予想されます。

(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

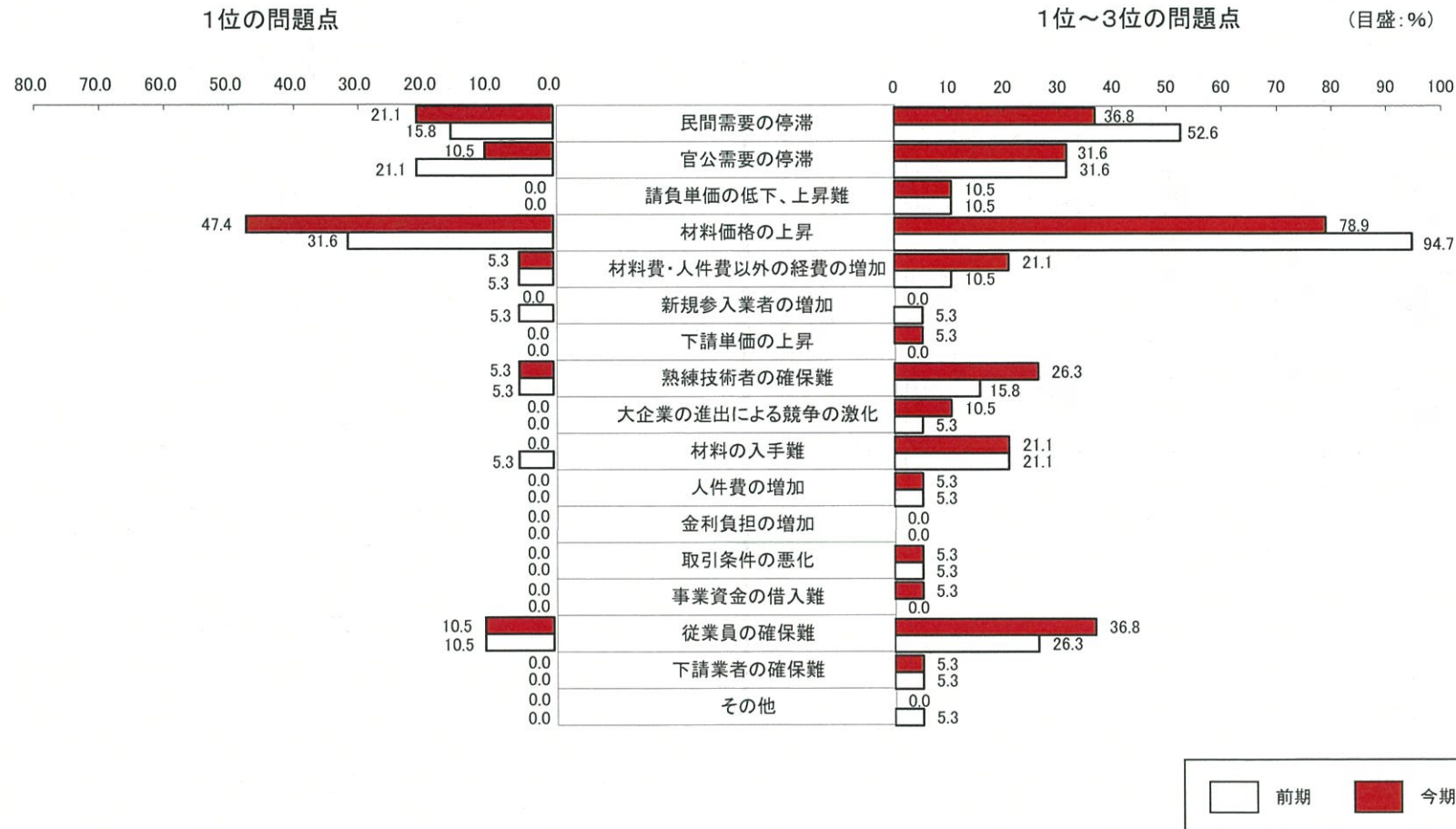


建設業の推移

経営上の問題点

岩手県 建設業

経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)



小 売 業 の 推 移

売 上 高

<今 期>

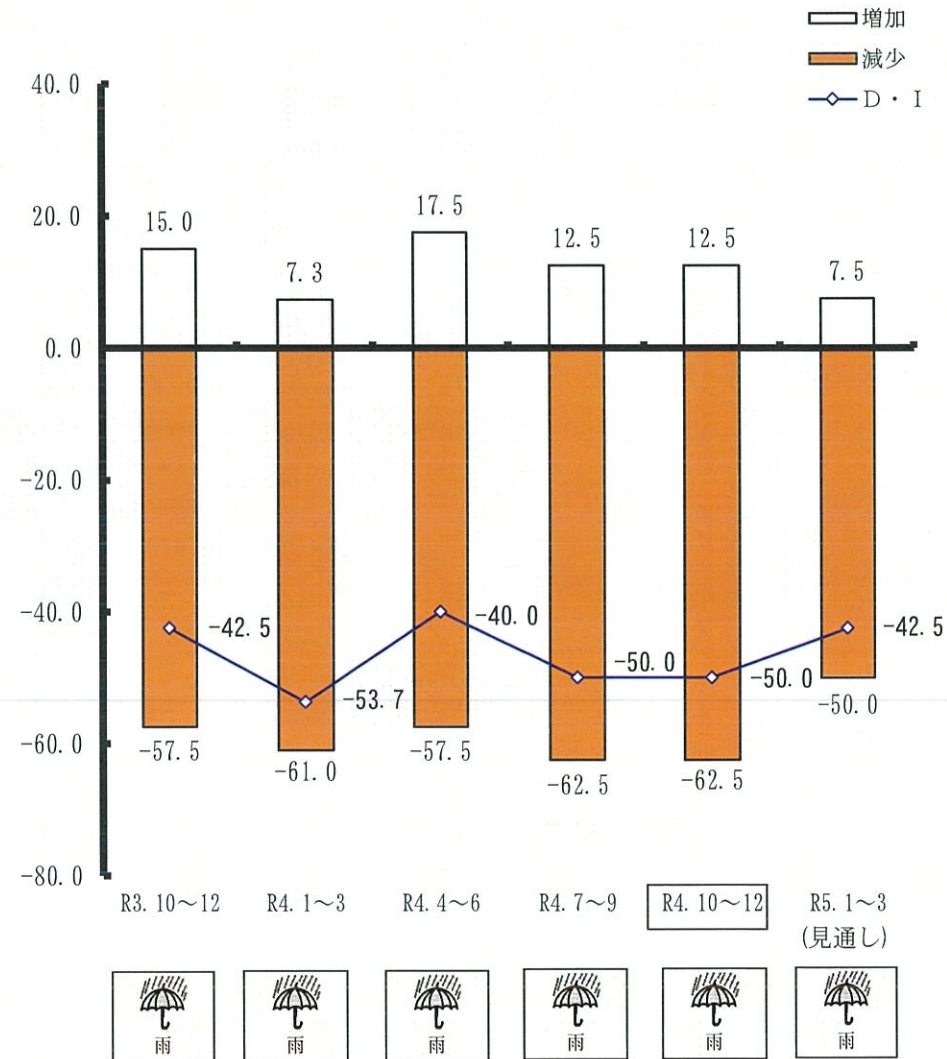


<来期見通し>



今期は、売上高増加企業の割合、売上高減少企業の割合がいずれも前期と同じ数値となった結果、売上高D・Iは前期と同じ△50.0の低い水準に留まっています。

来期は、売上高の増加を予想する企業割合が減少するものの、売上高減少を予想する企業割合も減少することが見込まれるため、売上高D・Iは改善に転じる見通しです。



小 売 業 の 推 移

採 算

<今 期>

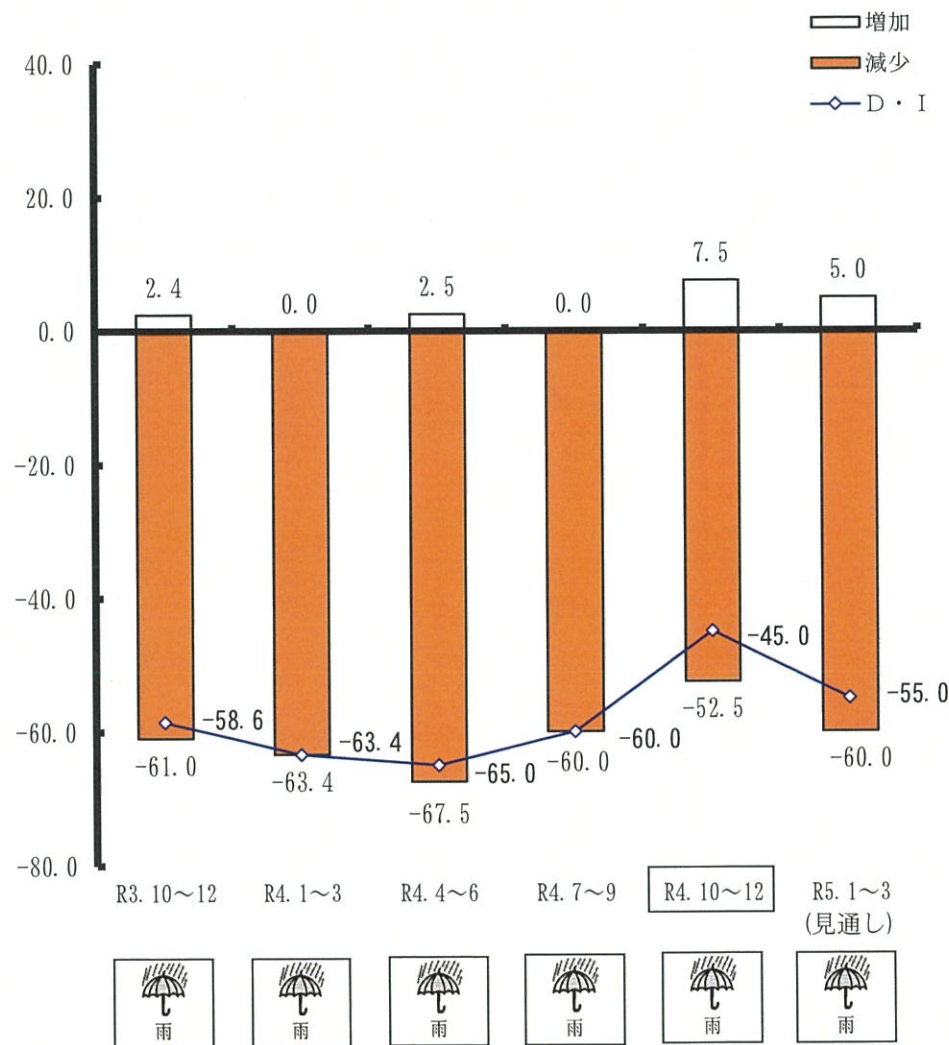


<来期見通し>



今期は、採算が改善した企業の割合7.5ポイント増加し、また、採算が悪化した企業割合が7.5ポイント減少したため、採算D・Iは2期連続して増加し、△45.0まで改善したものの、依然として低い水準に留まっています。

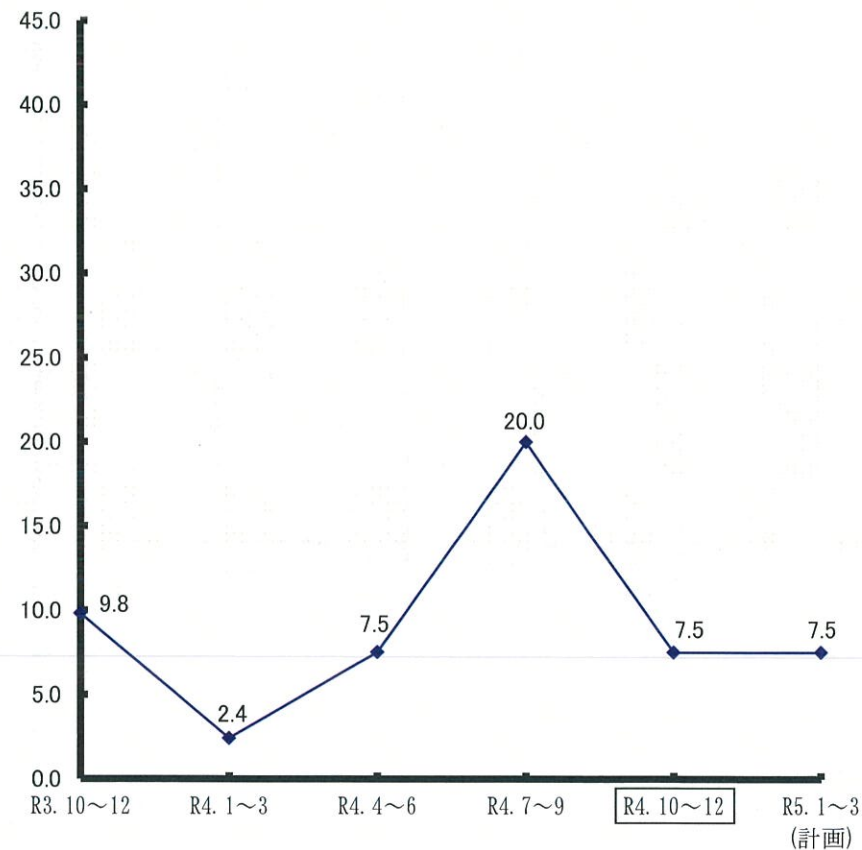
来期は、採算の好転を予想する企業割合が僅かに減少し、また、採算の悪化を予想する企業割合が増加することから、採算D・Iは再び悪化する見通しです。



設 備 投 資

前期、小売業において設備投資を実施した企業数の割合は20.0まで上昇していましたが、今期は減少に転じ、7.5に留まっています。

来期は、設備投資を計画している企業数の割合は今期と同様の低いレベルに留まる見通しです。



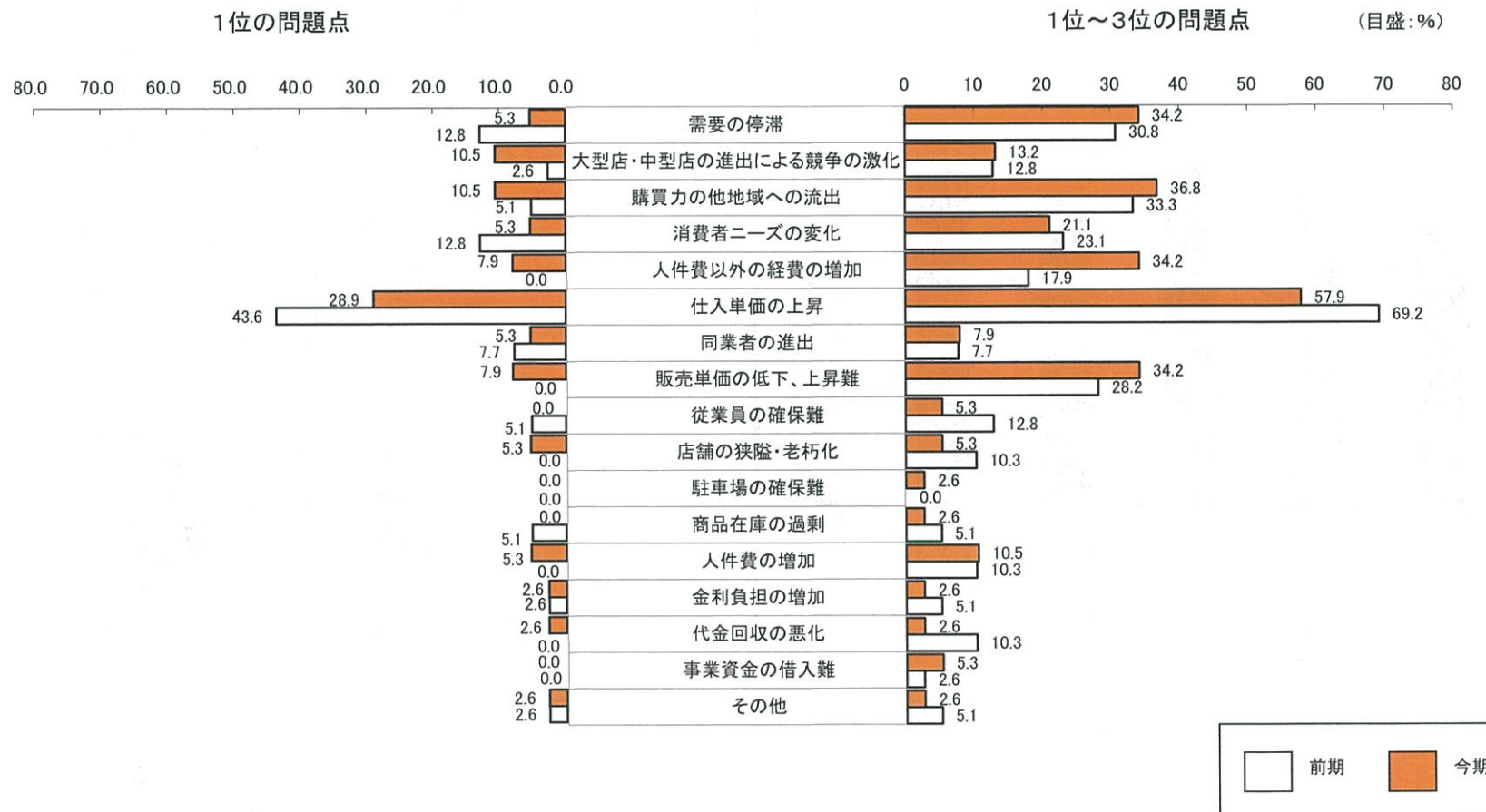
(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

小売業の推移

経営上の問題点

岩手県 小売業

経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)



サービス業の推移

売上高

<今 期>

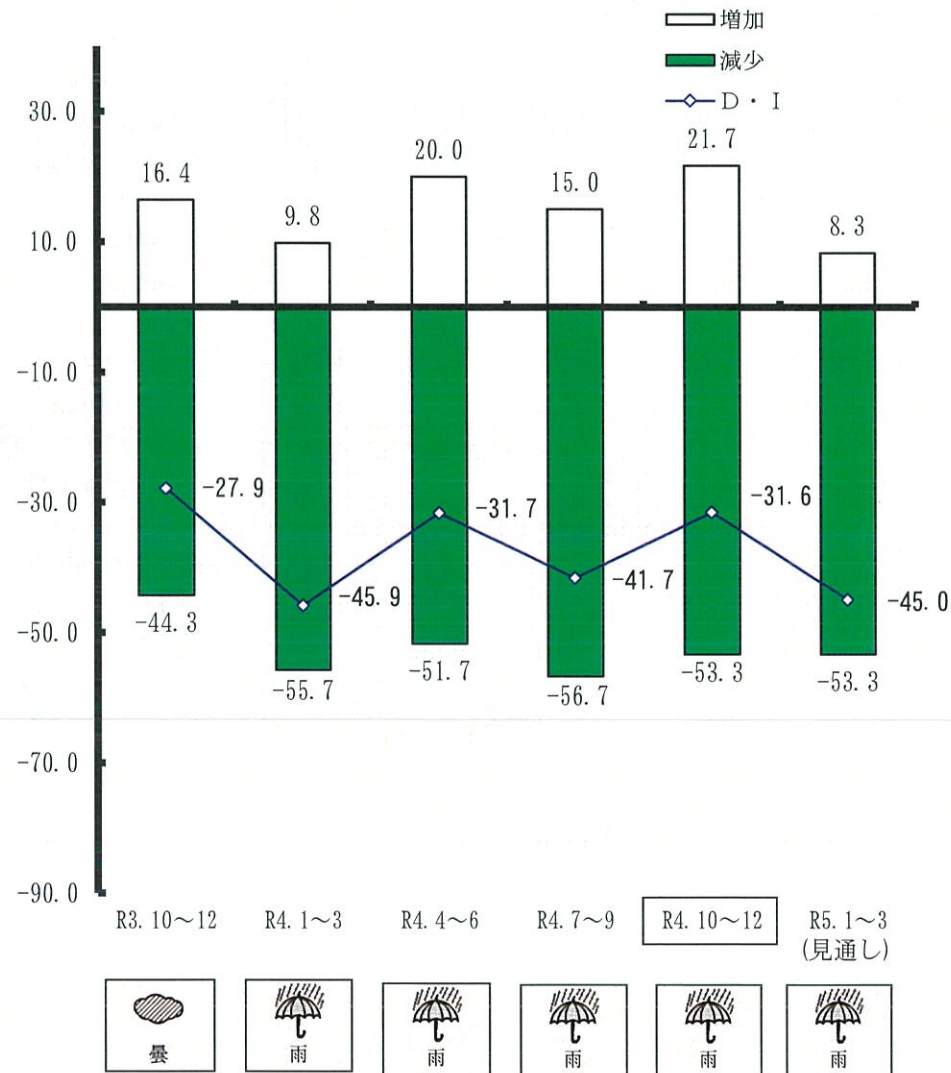


<来期見通し>



今期は、売上高増加企業の割合が6.7ポイント増加し、また、売上高減少企業の割合が3.4ポイント減少したため、売上高D・Iは10.1ポイント増加し、△31.6に改善しました。

来期は、売上高増加を予想する企業の割合が大幅に減少し、売上高減少を予想する企業割合が今期と同じレベルとなることから、売上高D・Iは大幅に悪化する見通しです。



サービス業の推移

採 算

<今 期>

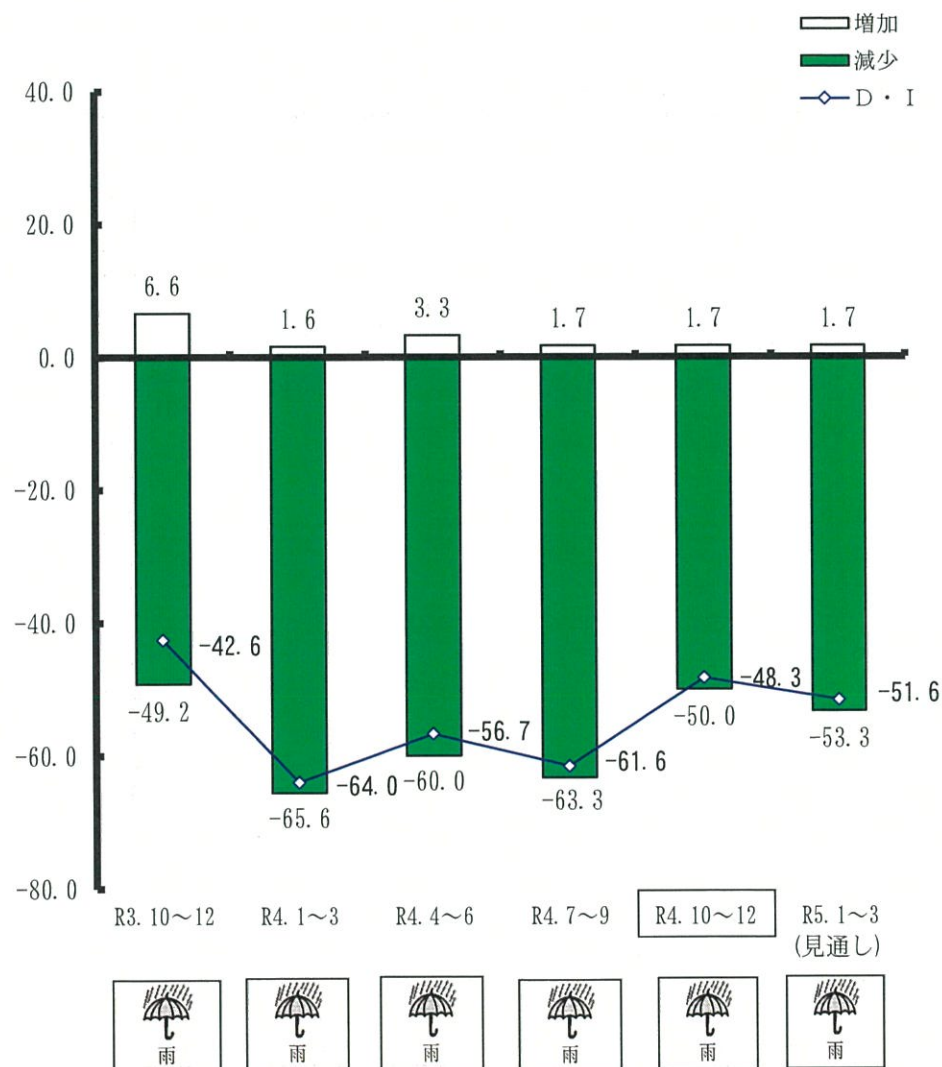


<来期見通し>



今期は、採算が改善した企業割合が前期に引き続き低い水準に留まったものの、採算が悪化した企業割合が13.3ポイントの大幅な減少となったことから、採算D・Iは増加に転じ、△48.3まで改善しました。

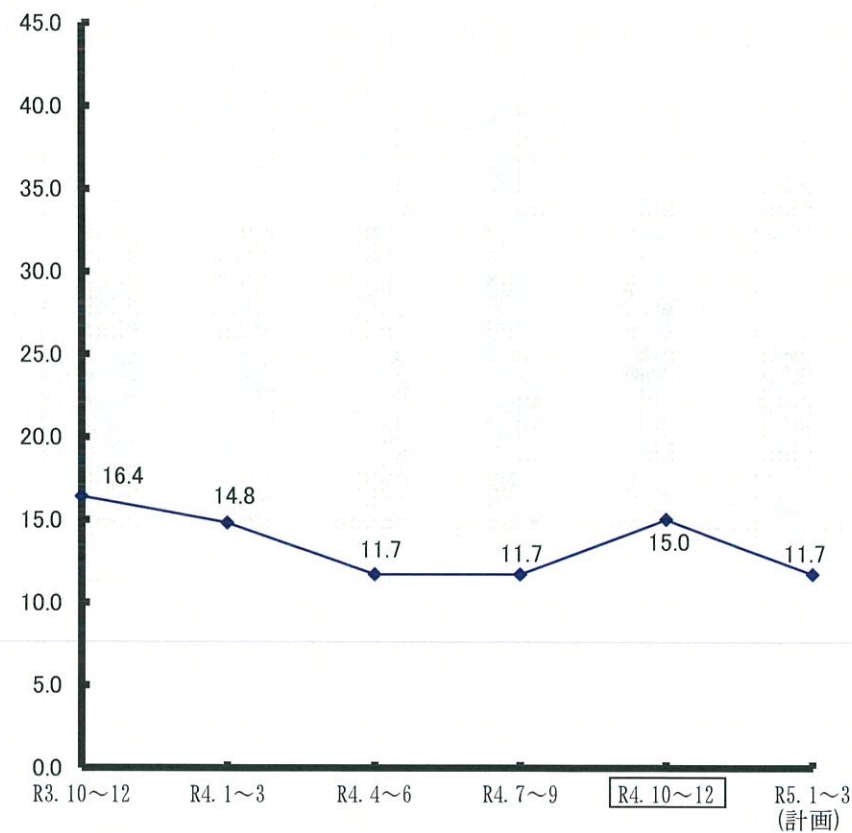
来期は、採算の改善を予想する企業割合が今期と横ばいに留まり、また、採算の悪化を予想する企業割合が増加することから、採算D・Iは再び減少に転じ、△51.6まで悪化する見通しです。



設備投資

今期設備投資を実施した企業数の割合は、増加に転じ、15.0まで回復しました。

来期は、設備投資を実施する企業数の割合は減少に転じ、前期と同じ11.7まで減少する見通しです。



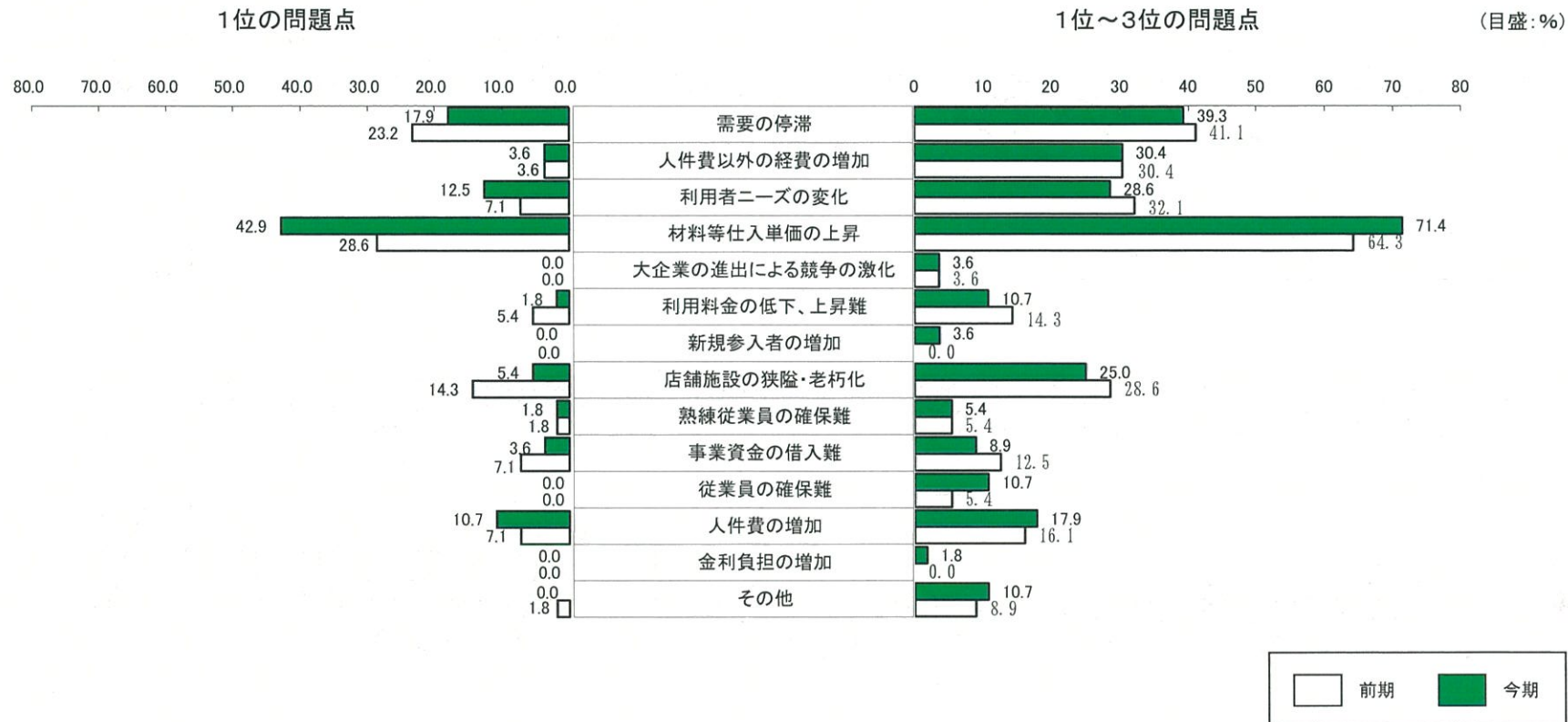
(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

サービス業の推移

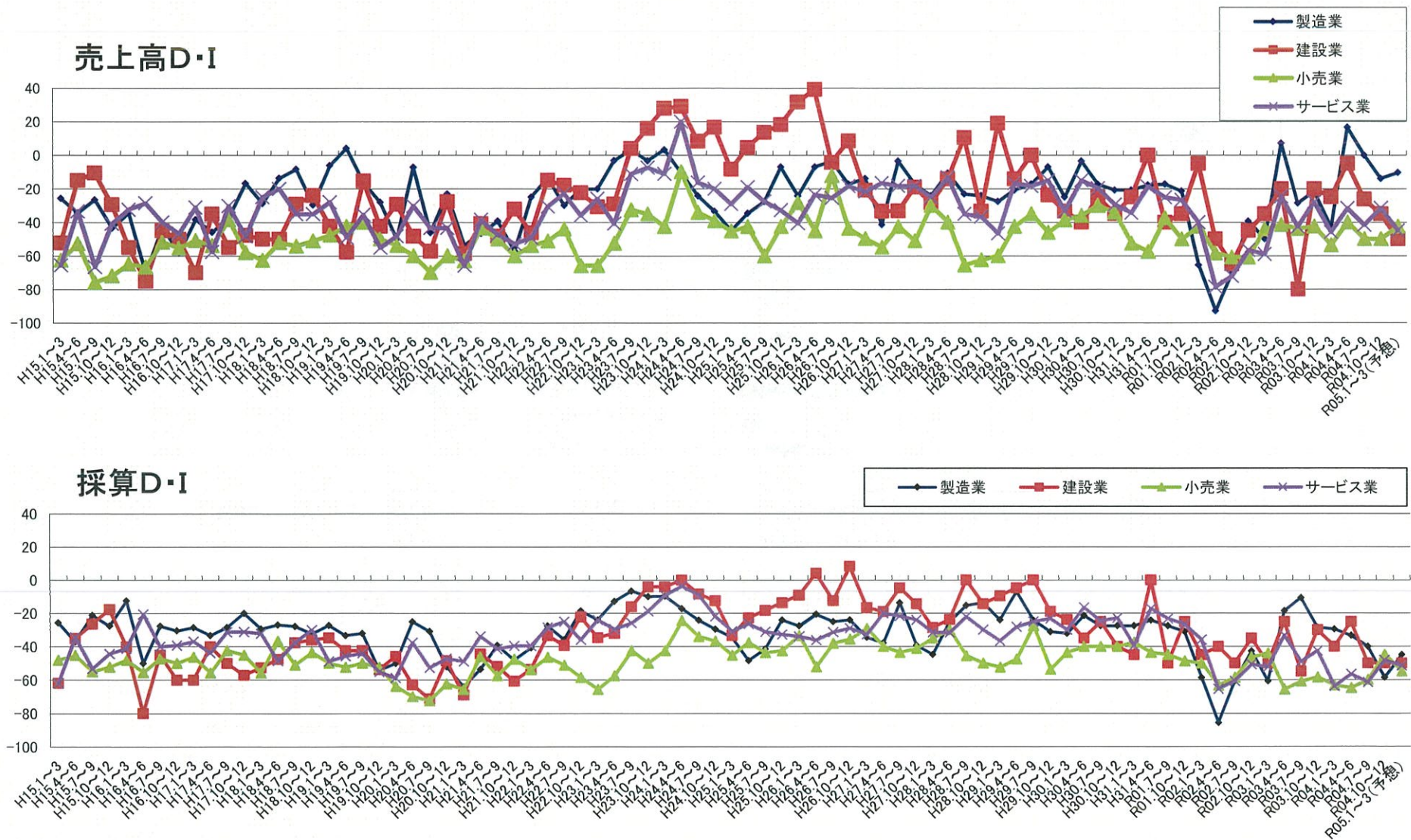
経営上の問題点

岩手県 サービス業

経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)



全産業の過去データの推移(平成15年1月以降)



集 計 資 料

調 査 要 項

1. 調 査 対 象 (1) 対象地区 県内10商工会地区 遠野、陸前高田、葛巻町、岩手町、紫波町
(商工会名) 西和賀、岩泉、普代、軽米町、九戸村
- (2) 対象企業数 150 企業
- (3) 回答企業数 149 企業
2. 調査対象期間 令和4年10月～12月を対象とし、調査時点は令和4年11月15日としました。
3. 調査方法 (1) 商工会の経営指導員が訪問面接し、聞き取りにより行いました。
(2) 調査対象地区の設定は、商工会地区市町村人口規模別の実態を勘案して行い、調査対象事業の抽出は、業種規模等有意選出により行いました。

4. 対象企業等内訳

業種 \ 項目	対 象 企 業 数	回 答 企 業 数	回 答 率 (%)
製造業 (地域産業)	30 (20.0)	29 (19.5)	96.7
建設業	20 (13.3)	20 (13.4)	100.0
小売業	40 (26.7)	40 (26.8)	100.0
サービス業	60 (40.0)	60 (40.3)	100.0
	150 (100.0)	149 (100.0)	99.3

(注) カッコ内の数字は、構成比 (%) を表す。

5. そ の 他 本報告書中のD・Iとは、ディフュージョン・インデックス (景気動向指数) の略で、各調査項目についての増加 (上昇、好転、長期化) 企業割合と減少 (低下、悪化、短期化) 企業割合の差を示すものであります。